

「借りる」で、

研究時間の確保
研究環境の強化
人材育成の促進
必要経費の削減

今までにないお得な 研究機器レンタルプラットフォーム 誕生

本資料は2025年7月25日に文部科学省の文科記者
会で実施した記者会見の資料もとに作成されています

本日の登壇者について



国立大学法人岡山大学
学長

那須 保友



国立大学法人岡山大学
副理事・副学長・上級URA

佐藤 法仁



日本電子株式会社
代表取締役社長兼CEO

大井 泉



日本電子株式会社
顧問(特命経営戦略担当)

渡邊 慎一

本日のお話のコンセプト:「買う」から「借りる」へ

汎用性のある研究機器や、ある程度の高額な研究機器は「借りる」。

最先端で極めて尖った研究機器やカスタマイズしたり、既存システムに組み込むなどの研究機器は「買う」。

「借りる」と「買う」をうまく使い分ける

「買う」ことのデメリット

- ・買って、長い間使い続けるのは、必ずしも良いことではないのでは？ それは、「買う＝長期間保有＝研究現場の陳腐化」の悪循環になっていないか？
- ・古い研究機器の使用で、無駄な研究作業時間が掛かっていないか？
- ・古い研究機器で、より精度の高い研究ができるのか？
- ・古い研究機器で、技術職員のスキルは向上するのか？
- ・古い研究機器を技術職員が保守することの人件費コストは妥当なのか？
- ・購入した研究機器の保守費や撤去費、突発的な修理費の工面に苦慮していないか？

「借りる」ことのメリット

- ・常に最新の研究機器が使用できる。
- ・最新の研究機器で、より精度の高い研究ができる。
- ・最新の研究機器の使用で、作業時間が短縮される。
- ・買う経費を、借りる経費に変える（「購入1台分から、3台借りる）ことで、研究進捗が早まることがある。特に短期間で成果を出したい時に有効。
- ・最新の研究機器がそばにあることで、技術職員が常に新しいスキルを身につけられる。
- ・最新の研究機器で、技術職員も保守作業から技術研究等に注力することができる。

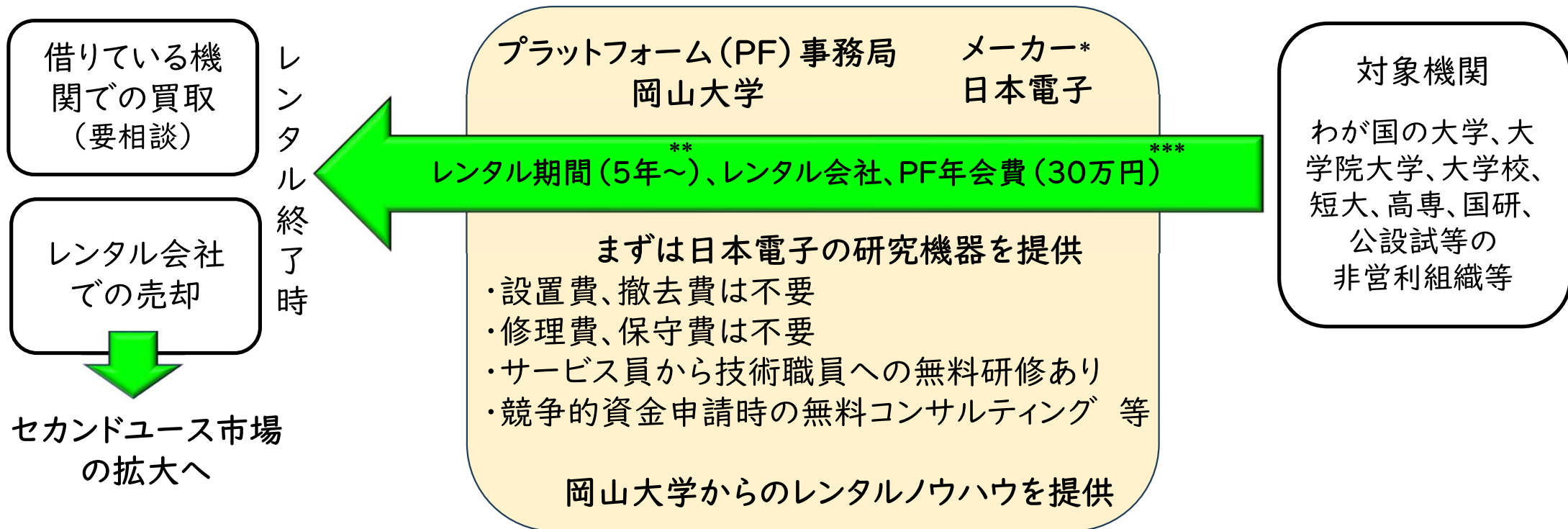
「借りる」ことのデメリット

- ・購入よりも経費が掛かる場合がある。
- ・保守費や修理費などが掛かる場合がある。
- ・毎年、借りるための資金を確保する必要がある。

誕生

Shared Transformation (SX) プラットフォーム

SXプラットフォームの概要



*メーカーは順次、国内メーカーを増やす予定。

**レンタル期間は、研究機器により異なる予定。

***年会費は予定。事務局の庶務・法人化経費や情報交流等に利用予定。

注1) 契約は基本「リース」となりますが、わかりやすいように「レンタル」と表記しています。

注2) 調達の諸ルールにより、当プラットフォームが必ずしもご利用できるとは限りません。

SXプラットフォーム：「借りる」ことでデメリットを解消し、メリットを最大化へ（1）

経費は、研究機器によっては「プラットフォームで借りる＞購入費」となることもありますが、

設置費不要

保守費不要

修理費不要

撤去費不要

4経費が不要

が組み込まれているプラットフォームプランは、「かなりお得」です。

必ずと言ってもよい修理費、そして必ず発生する撤去費などが掛からないです。

SXプラットフォーム：「借りる」ことでデメリットを解消し、メリットを最大化へ（2）

- ・常に最新の研究機器が設置されることによって、研究環境が改善される。
- ・常に最新の研究機器が設置されることによって、技術職員が最新機種に触れ続けられる。
- ・メーカー担当者が保守時に技術職員等へのレクチャー等を無料で実施。競争的資金の申請時の事前コンサルティングも実施。
- ・複数の機関が大型の研究機器を共同で借りることもできる。
- ・レンタル（リース）ノウハウの提供を受けることができる。
- ・レンタル後の買い取りも要相談で可能。

SXプラットフォーム:「借りる」ことから広がる可能性

- ・レンタル研究機器を共用化することで、その収入をレンタル費用に充てることも可能。
- ・最新の研究機器があることで外部組織との新たな産学官連携が生まれる可能性が増。
「研究機器を核」とした研究力・イノベーションの創出強化へ。
- ・セカンドユースのマーケット拡大によって、研究大学ではない機関や価格帯から手が出せない機関も中古品として新しい研究機器を手に入れることができるようになる。
- ・メーカー側は、次の「レンタル更新」を確保するため、絶えず新機種開発、バージョンアップなどの対応が必要となり、これがわが国のメーカーの開発力等の推進へ。



わが国の科学技術・イノベーションの強化へ

SXプラットフォーム：利用手順について

- ①8月：各機関等へプラットフォーム新設の周知。
9月：入会受付開始（改めてお知らせします）
- ②事務局（岡山大学）へ入会お申し込み。審査。
- ③審査完了後、年会費お振込み。入会完了。
- ④メーカーの研究機器メニューリストから借りたい機器を選択。メーカー担当者に連絡。
- ⑤入会機関とメーカーとでやり取り。（入会機関の調達等の諸ルールに乗っ取り実施）
- ⑥設置（設置時ノウハウを共有するため機器設置を加盟機関に周知）

加盟したからと言って、すべての研究機器について本プラットフォームを利用しなければならないという義務はありません。必要な時に、必要なものだけでOKです。うまく使い分けてご利用頂ければと思います。

SXプラットフォーム：今後について

- ・早期に「一般社団法人」などの公益性のある組織に移行し、その法人のサービスのひとつとして提供する予定。法人としてのサービスも、本プラットフォーム以外に増やしていく予定です。
- ・賛同する日本メーカーを順次拡大です。
- ・関係機関と連携し、必要なものは買う、買えるように設備整備事業費等の改善を関係機関に依頼します。また、レンタル（リース）することのインセンティブを検討することも依頼していきます。
- ・加盟機関のご要望をお聞きし、関係機関への協議等を進め、わが国の研究環境の改善等を進めていきます。

トップメッセージ: 日本電子株式会社 代表取締役社長兼CEO 大井 泉

わが国の科学技術・イノベーションを支えるもののひとつに研究機器があります。私たちは長年にわたり、研究機器に携わり、数多くの関係者の皆さまとともに社会変革を成すための取り組みを推進してきました。

今回、岡山大学的那須保友学長の力強いリーダーシップとともに、課題解決のための議論からの決断力の素早さに感銘を受けました。また、担当の佐藤法仁副理事・副学長・上級URAの国内外機関での改革の実績と培われた豊富なアイデア、そして何よりもその実行力の高さに驚きを感じ、この方々とならば「新しいことができる」と心が弾む思いをしました。

Shared Transformation (SX) プラットフォームは、決して岡山大学と日本電子のプラットフォームではありません。わが国の大学・研究機関、メーカー等が共に育てていく大きなプラットフォームだと認識しています。数多くの皆さまにご賛同頂き、わが国の研究環境の改善、そして科学技術・イノベーションを盛り上げていきたいと思えます。どうぞ、SXプラットフォームへのご賛同をよろしくお願い申し上げます。



トップメッセージ:国立大学法人岡山大学 学長 那須保友

私は「不易流行」という言葉を大切にしています。変えてはいけないものと変えて行くもの、そのバランスを大切にする必要があります。研究機器に関しては、「流行」だと思います。「研究機器が古く、いつ壊れてもおかしくない」、「お金がないので修理費が出せず、研究がストップしている」等を耳にします。それは「そもそもなぜ研究機器を“買っている”のですか?」、「組織の財務マネジメントはできていますか?」と思います。最先端の極めて尖った研究機器は購入、それ以外の汎用性あるものは借りる、そのためのマネジメントが大学・研究機関等には求められていると思います。

また研究機器を買っても、借りても、それに対応する技術職員の充実、高度化は必須です。技術職員の配置マネジメントは組織の責任ですが、人材育成は、大学とメーカーがともにノウハウを共有できればと思います。

今回、日本電子の大井泉社長が、「買うから借りる」という“流行”の想いにご賛同頂き、渡邊慎一顧問の高い行動力によって立ち上げることができました。今後はメーカーも増やし、わが国の研究環境に変革を与えるプラットフォームへと育てます。ぜひご参加いただければ幸いです。



その他

SXプラットフォームは、岡山大学が採択されている文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」（実施主体：日本学術振興会）の取組のひとつとして実施されています。

また本情報は、2025年7月25日に文部科学省の文科記者会において記者会見を開催した内容をもとに作成しています。今後、新しい情報は、岡山大学と日本電子のホームページ等で公開していきます。



Shared Transformation (SX) プラットフォーム

参考・補足資料URL

- ・日本電子株式会社 
<https://www.jeol.co.jp/>
- ・岡山大学 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS) ホームページ 
<https://j-peaks.orzd.okayama-u.ac.jp/>
- ・岡山大学 J-PEAKS MONTHLY DIGEST 
https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/jpeaks_digest.html
- ・中規模研究設備の整備等に関する論点整理 (文部科学省 研究環境基盤部会 令和5年6月27日) 
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/010/toushin/1412585_00005.htm
- ・科学技術・学術審議会 大学研究力強化委員会 (第16回) 配付資料 参考資料3大学・大学共同利用機関の研究力強化に向けて 参考資料 (文部科学省科学技術・学術審議会 大学研究力強化委員会 令和6年11月14日) 
https://www.mext.go.jp/content/20241114-mxt_gakkikan-000038702_7.pdf
- ・e-CSTIを活用した資金配分と論文アウトプットの関係性の分析について (内閣府科学技術・イノベーション推進事務局エビデンスグループ 2023年3月) 
https://e-csti.go.jp/wp-content/uploads/2023/03/e-csti-2-kenkyu-funding-report_202303.pdf